



高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX 0740(32)4156
<http://takashima-tojukai.com/>

藤樹先生との出会い・学び

高島藤樹会理事 藤原浩之



今から十七年前、安曇川中学校では藤樹ウオークという取組を行っていました。

藤樹ウオークとは、藤樹先生の紙芝居等でもよく知られる話である、馬方又左衛門が加賀の飛脚の忘れた大金を約三十キロも離れた榎の宿(現在 大津市和邇)まで届けたというルートを、南から北に向かって歩くものです。これほどの距離を困っている人のために忘れ物を届け、お礼すら断ったという行動の基礎となつている藤樹先生の教えを学んだことが、私と藤樹先生との出会いであつたと思います。

その取組も数年でなくなり、藤樹先生の教え「五事を正す」「致良知」等の言葉は目にして、その先を深く考えることもなくなりました。

昨年、縁あつて高島藤樹会の理事にというお話しをいただき、とても自分のようなものに務まるとは思えませんでした。安曇川町に長い間お世話になつたご縁を感じ、お引き受けしました。

まずは、藤樹先生のことを知り学ぶことからだと思ひ、四月から日程が合う月は藤樹人間学塾に参加しま

した。そこで学ぶ「孝」の思想は奥深く、簡単に理解が深まるものではないかもしれません。ただ、現在のいろんな世界の情勢が耳に入るたび、藤樹先生ならどのように考え、私たちに示唆を与えていただけるのだろうと考えるようになりました。いろいろと想像するよりも、先生の教えの源を少しでも知ることからだと考え、中江藤樹『翁問答』現代語訳の本を購入しました。読んでみると、時代背景は現在と異なるものの、大変参考になることや今のいろいろな立場の方々には是非参考にしていただきたいことがあります。

まず、自分の認識不足を痛感したのは冒頭の部分でした。

『われわれ人間の体には、「至徳要道」(最も重要な道である至高の徳)と呼ぶ天下無双の霊妙な宝が備わっている。その宝を活かし、心に誓つたことをよく守り、忠実に実行するのを基本と心がけること』を基本に、『至徳要道』という至宝を分かりやすく教え示すために、「孝」と名づけた。』とあり、親に仕えることだけが「孝」ではなく、孔子が「天道は、孝という徳を備え、神妙不測にして広大深遠な存在で、始まりも終わりもない」と『孝経』という書物に記したように、「孝」とはもつと広く大きいものであるということを知り、自分の知識は何と浅はかであつたと思ひ知りました。

『聖人の心は、いわゆる「良背敵應にして意必固我がないのである。つまり、あらゆることに無私無欲で柔軟に対応し、自分の意見を押し通したり強調しようとする私心というものがないから、富貴貧賤とか死生禍福といったことや、それ以外の世の中の全てのことや、大小高低、清濁美醜といった点に対して、好き嫌いで選り分けようとする心情が全くなく、全身全霊に一貫しているのは「皇極の神理」だけである』

『たとえ主君が嫌う物事であつても、主君のため、国のため、家中のためによいことなら、主君を上手に諫めて主君が実行できるように導き、たとえ主君が好きで気に入っている物事でも、それが悪いことなら必ずやめさせるようにうまく諫め、そうすることが主君の気だてや身の持ちように適うだけでなく道にも適い、国が富み豊かになつて末永く栄えるようにと一心に念じながら、自分自身がどうなるかと少しも顧みない。』

コロナ禍や不安定な世界情勢、藤樹先生なら「あらゆる角度からの研究を進めたデータを正確に分析し、落ち着いて考えなさい」と話される気がします。そして、ここに挙げた二つの内容を、それぞれの立場の人に丁寧に説かれるに違いないと思ひます。藤樹先生の教えが世の中に浸透していくことを願うばかりです。